

## ※ 保育の質

資料8

- ① 保育内容
- ② 保育環境
- ③ 労働環境

## ● 保育所の課題の整理①

### ① 職員管理の複雑化(※主に②③に影響)

民間と比較して職員数及び職種が多いことから、職員を管理する園長・副園長への負担が大きい。

### ② 正職員の負担増(※主に①③に影響)

クラスごとに配置されている正職員の割合が少ないため、以下のような課題が生じている。

- 書類作成(カリキュラム等)や保護者対応に関して、正職員にかかる負担が大きく、保育に関わる時間が確保できない。
- 一方で、早番、遅番等の当番については、正職員が少ないことから1人/1日の配置となっており、送迎時の保護者対応等は、時間外の会計年度任用職員が行っている。
- 正職員の人数が少ないため、シフトの調整が困難。
- 経験の浅い正職員でも責任のある仕事を任されてしまい、育成の機会が少ない。

## ※ 保育の質

- ① 保育内容
- ② 保育環境
- ③ 労働環境

## ● 保育所の課題の整理②

### ③ 事務作業の負担（※主に③に影響）

保育計画や日々の保育記録等事務作業にかかる負担が増加している。

→「保育士の魅力ある働き方推進」の取組みにおいて、令和4年度に登降園システムの導入やタブレットの導入などICT化の推進を行った。各園において、引き続きICT化推進による業務効率化を進めていく。

### ④ 支援の必要な児童（加配児）の公立保育所への偏り（※主に①②に影響）

加配児を受け入れるためには、基準上の保育士数に加えて保育士を配置する必要があるが、公定価格の制度上、私立保育所等での受入には限界があり、公立保育所で多くの児童を受け入れている。

加配児の受入の偏りにより、以下のような課題が生じている

→保育室に保育士の数が多いため、児童が依存的になったり指示待ちになったりしやすい。

→本来の基準以上の数の保育士が配置されることから、保育室が手狭になる。（保育環境の悪化）

各私立園の規模に応じて、加配児の受け入れ枠を設定し、加配児を受け入れた場合、枠の範囲内での受け入れに対して財政的な支援を行っている。（市の単独補助事業）

## ※ 保育の質

- ① 保育内容
- ② 保育環境
- ③ 労働環境

## ● 保育所の課題の整理③

### ⑤ 慢性的な保育士等の職員不足(※主に③に影響)

会計年度任用職員や任期付職員は、年間を通じ募集し続けている状況。また、保育士だけではなく調理員の雇用も困難な状況。

- 白井市では、保育士確保施策として、保育士の処遇改善のための賃金補助、家賃補助、駐車場補助の実施、毎年1回保育士就労合同説明会を実施している。
- 令和4年度に「保育士の魅力ある働き方の推進」の取組みの中で、市内保育士へのアンケートを実施し各園の就労環境等の実態把握等の取組みを実施している。
- 令和5年度においても、保育士交流会などの取組みを行い、現場の保育士が保育環境などを改善するための取組みを提案するための仕組みづくりを構築していく。

### ⑥ 育成機会の確保とキャリアデザイン(※主に①に影響)

日々の業務に追われ、研修等の育成機会の確保が難しい。また、昇格に関し試験制度が導入されていないこともあり、キャリアデザインが描きにくい。

## ●保育所の課題の整理④

### ※ 保育の質

- ①保育内容
- ②保育環境
- ③労働環境

